

令和四年度草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る署名式の実施

3月21日、令和四年度草の根・人間の安全保障無償資金協力にかかる3件の署名式が大使公邸にて開催されました。3件のそれぞれの内容と被供与団体代表の挨拶は以下の通りです。

1. 「中央マシヨナランド州及び東マシヨナランド州における地雷除去計画」

本プロジェクトは、国際NGO「HALOトラスト」に対して、647,237米ドルの資金を供与し、ジンバブエ北東部の中央マシヨナランド州ルシンガ郡及び東マシヨナランド州ムジ郡の計0.146平方キロメートルの範囲で地雷を除去することで、周辺地区で暮らす住民に対する地雷の脅威を取り除き、安全に農業及び畜産業に従事できる環境を整えるものです。HALOトラストへの支援が今回で9回目となります。

HALOトラストのトルベト・プログラムマネージャーは、日本政府の継続的な支援に謝意を表明するとともに、2025年に地雷をゼロとする目標の実現に向けて、今まで以上に活動に力を入れていきたいと述べました。

2. 「農家の技術・知識向上のための農業研修施設の建設計画」

本プロジェクトは、NGO「ジンバブエ教会委員会」に対して、89,969米ドルの資金を供与し、中央マシヨナランド州ムビレ郡において、新たに家畜飼育・農業研修センター兼家畜市場建設整備することで、地域の農家1200名以上に対して持続可能な家畜飼育・農業生産技術の研修を可能とし、地域の農民の生計向上に寄与するものです。

ジンバブエ協会委員会のディミング代表は、日本政府による支援に謝意を表明するとともに、完成した研修センターで、地域の農家に対して持続可能な家畜飼育技術などの研修を実施し、乾燥地域の農家の生計向上を目指したいと述べました。

3. 「クフンダ初等学校における教室の建設計画」

本プロジェクトは、NGO「クフンダ村共同体」に対して、91,695米ドルの資金を供与し、東マシヨナランド州ゴロモンジ郡23区のクフンダ初等学校に新たに教室棟及び太陽光発電ポンプ付き井戸を整備するもので、同校の教育及び衛生環境の改善を図るものです。

同校のボタン教員は、限られた資金の中で日本政府による支援に謝意を表明するとともに、新しい教室の完成は子どもたちにとって特別なことであることを強調するとともに、同校の教育の質の向上に努めたいと述べました。

また、同式典で田中大使は、草の根レベルのニーズを捉え、これに応えようとしている各NGOに謝意を延べるとともに、それぞれのプロジェクトは、将来にわたりコミュニティの人々の生活を大きく改善するものとなるだろうと期待を表明しました。また、地域コミュニティがオーナーシップを持つよう、プロジェクト開始直後から、コミュニティをしっかりと巻き込むことが重要であると強調しました。



署名式の様子



署名した被供与団体との集合写真



被供与団体ヘイロー trusts



被供与団体ジンバブエ教会委員会



被供与団体クフンダ村共同体



田中大使との歓談